

式辞

杏の花の開花が待ち遠しい今日この頃となりました。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。例年とは異なる形ではありますが、令和元年度の卒業証書授与式を挙行し、卒業証書を授与できますことに感謝と御礼を申し上げます。

本年度も、松林孝二郎様からろうとう桜を贈呈いただきました。本校の教育活動へのご支援をいただき、多くの地域の皆様方に感謝申しあげます。

私は皆さんとの思い出がいっぱいで様々なことをお伝えしたいです。しかし、感染症防止のため、すべてをこの場所でお伝えすることはできません。詳細な式辞の内容は屋代中学校ホームページに掲載いたしました。ご覧ください。

私が皆さんと一緒に活動した中で、一番の思い出となっているのは、乗鞍登山でした。普段なかなか会話をすることが少なかった皆さんとも一気に打ち解けて、山に登りながら様々なことを話したことが昨日のように思い出されます。そして梓川のほとりでの合唱を対岸から聞いた私は、その歌声に感動したことをつい昨日のように覚えていません。

実は入学当初は響き合うような歌声ではありませんでしたが、毎週金曜日の音楽集会で歌声を磨いてきました。

三年生の四月、修学旅行では外国人観光客の前で歌声を披露し、多くの外国の方々から盛大な拍手をもらい感動を与えました。そして、修学旅行の後には、最後の杏苑祭に向けて、歌声を更に発展させようとする皆さんの思いを強く感じました。特に、昨年までいま一つ乗り切れていなかったクラスも、話し合ったり目標を決めたりして、最大限のクラスのまとまりを見せ、「今年こそは感動賞を」と決意を固めて臨みました。杏苑祭終了後、残念ながら感動賞を

とれなかったクラスでは、「感動賞をとれなかったけれど、私はこのクラスでよかった。みんなと一緒にになって合唱できてよかった」という感動的な言葉も生まれました。改めて三年間を通じて素晴らしい仲間づくりができたと感じました。

本校の伝統は合唱だけではありません。皆さんは、「心を交わす明るい挨拶」、「感動を生む大合唱」、「無言（ひとり）から始まる気づきの清掃」の「屋中生の誇り」を、日常的に実践してくれました。

挨拶については、私にも廊下ですれ違つと「こんにちは」と明るく声をかけてくれました。また、早朝ウォーキングをしているお年寄りからも、体の大きな三年生が会釈とともに、気持ちの良い挨拶をしてくれた等の声も届いています

清掃については、職員室廊下や学年のホールの清掃に、三年生がひざをついて一心不乱に掃除をしている姿に、黒

光りした木造校舎の時代から清掃に力を入れている屋中生徒会の伝統を感じると語る先生方もおられます。それともにも、生徒会の役員の皆さんが、屋代中の清掃は伝統ではあるけれど、単なる継承ではなく、さらに伸ばそうと全校で話し合ったり、次年度に向けて検討したりしてくれました。

皆さんのおかげで、屋代中学校は、規律正しい落ち着いた生活の中で、全校生徒が伸びやかにもっている力を最大限に発揮できる雰囲気的形成されました。

部活動でも、皆さんは部全体をまとめ、熱心に練習を積み重ね、その成果は各種大会やコンクールで十分発揮され、県大会や北信越大会等に出場するなど大きな成果を上げました。しかし、私が素晴らしいなあと思ったのは、昨年度の新人戦やアンサンブルコンテストではなかなか成果が出なかったものの、三年生になって意識が大きく変わり、例えば今まで一セットも取れなかった相手から一セットを取るなど、二年生の頃よりも成果をあげたことです。

「全員の気持ちをあわせるんだ」、「相手は他校ではなく自分たち自身だ」と語り、顧問の先生や仲間と共に、気持ちをあわせて取り組みました。会場にいた私は思わず頬を濡らしてしまいました。技術的なことと共に、精神力や意欲も重要だと改めて学ばせてもらいました。

また、どの会場でも屋中生がさわやかな挨拶を率先して行っていた、さらには大会終了後の会場の片づけも進んで行っていたとの声も届きました。

大会やコンクールでは順位や勝ち負けがつきませんが、皆さんは一生懸命やり抜いた後は、どんな結果になっても、威張らず腐らず、自分の生き方の糧にしている姿がとても印象に残りました。

私はよく皆さんの教室にお邪魔しました。皆さんは、先生方と良好な関係を作り、伸びやかな雰囲気の中で、先生方の指導や友達の発言に耳を傾け、熱心に学んでいました。そして授業中に解決できなかったことや不明なことがあると、職員室や研究室等で、先生方等に質問をする姿を多く

見ました。

また、屋代高等学校の生徒との学習交流会では、高校生の説明が始まると体を乗り出して、一言も聞き漏らすまいとする姿や、高校生から学んだことをもとに自分で問題を解こうとする姿に、本気さを感じました。

また、新型コロナウイルスの蔓延という前代未聞の状況の中でも、慌てず落ち着いて教室で学習する姿や、早朝の会議室や教室で黙々と机に向かい、鉛筆を走らせる姿が見られました。まさに、向学の気風をもった三年生だと感じました。

卒業生の皆さんの前途を祝し、はなむけの言葉をおくります。それは、『ありがとう』という言葉です。

皆さんが、十五年の歳月をかけて、卒業という晴れの日を迎えられたのは、大変すごいことです。成長した自分自身に自信をもちましょう。しかし、皆さんの力だけではなかったのです。

保護者や部活動の外部指導者、地域の皆さんなど、どれほど多くの方々が、未熟な皆さんを、支え、励まし、信じてくださったのか。また、陰から皆さんをどれだけ支えて下さったのか。

だから、家に帰ってまずは御家族の皆さんに
そして、春休み中でも結構ですし、時間ができたところで
お世話になった地域の方々に、皆さんのやり方で、皆さんの
言葉で、「ありがとう」と伝えてください。

「ありがとう」の一言を残せる人は、必ず、どこに行っても
どんな場所で働いても、大切にしていただけるようになりま
す。

結びに、保護者の皆様におかれましては、今日のこの晴
れの日を迎えるまでに、言葉に尽くせぬご苦勞があったこ
とと存じます。

雨の日も風の日も、励まし、学校に送り出していただき、

本当にありがとうございました。十分なことができませんでしたが、本日をもって大切なお子様をお返しいたします。義務教育終了おめでとうございました。そして、有り難うございました。

臨席をいただくことができなかった、日ごろお世話になっております全ての皆様方に、重ねてお礼を申し上げ、式辞といたします。

令和二年三月十七日

千曲市立 屋代中学校長 塩野入 幸隆